

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502348		
法人名	有限会社レイロ		
事業所名	グループホーム涼風		
所在地	札幌市豊平区中の島2条7丁目4-5		
自己評価作成日	平成25年11月11日	評価結果市町村受理日	平成26年3月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigyosyoCd=0170502348-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの理念でもある「ゆったりと穏やかな雰囲気の中で安心して安全に生活を送ることが出来るように支援する」のもと、スタッフは常にご利用者様の事を考えており、ゆったり、穏やか、楽しい生活を送って頂けるよう支援している。
居室を和風にしており、落ち着いた雰囲気です生活できるよう配慮している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム 涼風」は、地下鉄南平岸駅から徒歩圏内にある静かな住宅地に位置し、近くの広い「精進河畔公園」には、川が流れていて自然景観が楽しめる環境にある。2階建て2ユニットの屋内は明るく、共用空間は家庭的な装飾で落ち着いた雰囲気である。開設後10年が経過する中で、管理者と職員は、利用者が安心して、ゆったりと、穏やかな暮らしができるように理念を常に意識して実践している。利用者と家族の意向を大切に、運営推進会議の前に全家族から意見を頂き、意見や疑問点などを取り上げて事業所の対応や考えを議事録にして送付している。介護計画は3か月毎に、計画作成者と担当職員が中心になって見直し、家族・利用者の思いを引き出してアセスメントや会議資料を基に作成している。代表と管理者は個人指導を中心に職員の育成にも力を注いでいる。利用者の介護度が重くなっても安心して生活できるように、協力医療機関の往診や他科受診記録の往診・受診対応表を基に主治医・家族・職員が共有し、早めに対応している。利用者は夏場は公園を散歩したり、プランターで野菜や花を育てるなど、毎日のように外気に触れている。

V. サービスの成果に関する項目(1階アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられる (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念と共にフロアの理念を掲げ、職員がいつでも確認出来るようにしており、職員全員で理解し支援につなげている。	事業所理念と共に、地域との関わりや交流を入れた各フロア理念を要所に掲げている。職員は事業所理念にある、ゆったりと、おだやかで、安心、安全の文言を意識しながら日々ケアを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会しているが、現在交流が少なく、今後は地域の行事に参加し交流を多くしていきたい。	町内会の運動会には参加が難しいので、地域にある老人保健施設の夏祭りに参加している。公園を散歩中に、遊んでいる保育園児と会話を楽しみ、職員の子供が事業所に遊びに来て交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、地域の方とは挨拶程度の交流となっており、今後は運営推進会議、町内会等を利用して積極的に行って行きたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回のペースで実施できている。ご利用者様の様子やホームの取り組みを報告している。	今年は運営推進会議を3回開催し、年度中にもう1回行う予定でいる。全家族への会議案内で意見を頂き、家族や委員の意見を中心に会議を進めている。町内会から防災についての意見を頂き参考にしている。議事録は全家族に送っている。	今後も2か月に1回の定期的な会議開催に向けて継続的な取り組みを期待したい。また「自己評価及び外部評価」の結果を報告し、取り組みの経過についても話し合う機会を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホームの相談があれば市役所の担当の方に、その都度、意見を求めており、協力頂きサービス向上に努めている。	市に報告する際に、事例について相談している。生活保護の担当者とは連絡を密にして関係を築いている。市・区のグループホーム管理者会議に出席し、職員会議で情報を伝達している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の業務の中で話し合いを行い、拘束しないケアに取り組んでいる。ドアの施錠については安全面を考慮してはいるも、希望があれば解錠し圧迫感を与えないように努めている。	マニュアルに「禁止となる具体的な行為」の項目について、事例を取り上げて記載しているがあまり活用されていない面もある。会議やケアの中で、特に言葉の拘束を重点的に話し合い、職員の対応状況に合わせて個人指導をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々、業務の中で話し合いを行っており、必要時は勉強会も開催し虐待防止に努めている。		

グループホーム 涼風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を利用している利用者があり、職員にも会議等で理解に努めている。今後も必要であれば支援を行っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には入居される方に十分な説明を行うように努めており、時間を頂き質問等に返答させていただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、ご家族様の意見や要望を聞く様にし、運営推進会議でも、ご家族様の意見を聞く機会を設けている。	担当職員は手書きで生活の様子を報告し、毎月の書類送付時に送っている。家族の来訪時には話の内容によって主任、管理者、代表が対応しているが、全員で家族の意向を聞いている。意見などは「フロアシート」に記載し、共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務においてフロア主任が意見を聞く機会を設けて、管理者、ホーム長と話し合いを行い検討を行っている。	必要な時にフロア会議や全体会議を開いて、会議の前にアンケートで意見を収集し、議題にして意見を交換している。業務の中で分からないことは、その都度教えている。休みの内容を取り決め、勤務表の希望を公平に受けて配慮している。	会議の中で、テーマを取り上げ、資料を活かした勉強会を開催されることを期待したい。またその中で、身体拘束に関する勉強会の開催も期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	残業のない業務体制を取っており、仕事と私生活の調和がとれ、安心して働けるような環境を作るように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の業務の中で問題点ができれば、話し合い等を行い、知識・技術の向上に努めている。今後は内部研修、外部研修に参加できる機会を増やしていく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や区の管理者連絡会等に参加し、交流を図るように努めており、意見交換も行い支援の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様との面談を行い、可能であればホームの面談をして頂いている。その際は不安を解消できるように話し合いを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にホームに来ていただき、話し合いの場を設けている。不安なことや困っていることを把握し、連絡を密にとり、安心して生活して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の問題点をご家族様と話し合い、必要時には病院、施設等から情報を頂いて「初期生活援助計画表」を作成し、状況に応じた支援を行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしい生活を送って頂く事を考え、個々の状況に合わせ、できる事をして頂くように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1度、ご家族様に利用者様の近況を報告し、面会時等にご家族の意見を聞く機会を設け、支援に活かせるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人様が気軽に訪ねて来られ、楽しい時間を過ごして頂けるような環境作りに努めている。	来訪者には、必ず家族の意向を確認してから来てもらっている。以前住んでいた近所の方が、年に数回は来訪している。家族の協力でお墓参りや外食に出かける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション等で、ご利用者さまがリビングに集まれる機会を多くし、孤立することが無く良い関係を築ける様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族さまより相談事があれば、必要に応じた支援を行っている。退居された後にお亡くなりになったご家族様よりも連絡を頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者さま個々の視点に立ち、表情や行動から、その方の意向を汲み取り、日常の会話からも何を望んでいるかを聞き取り、把握に努めている。	利用開始時に「ライフストーリー表」を家族に記入してもらい、アセスメント表を6か月毎に作り直して情報を蓄積している。利用者の思いを把握し、介護計画に意向を取り入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人さまより昔の過ごし方等を聞き取り、ご家族様からも今までの暮らしぶり等の情報を得ている。入居時に「ライフストーリー」を作成し、一人一人の思いを汲み取れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者さま一人一人のその日の様子や変化を職員全員で情報を共有するように記録物等を活用している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向や希望を確認し、定期的にモニタリングシート、カンファレンスシートを作成している。職員の意見等もまとめ、ご本人の状態に合わせた介護計画を作成している。	担当職員は計画作成者と相談してアセスメント表を3か月毎に見直し、カンファレンス資料を作成して意見を交換している。作成者は介護計画書を家族に送り、意向を確認している。介護計画を参照しながら変化などをケース記録に記入している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録のケース記録と、日々のご利用者全員の様子を記録したフロアシートを活用しており、職員の情報の共有と共に介護計画の見直しにも反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の高齢化に伴い、その時々状況やニーズに柔軟に対応しており、サービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人さまの意向や必要性に応じて、民生委員や警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援するように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及びご家族様の希望を大切に、納得が得られるかかりつけ医と適切な医療を受けられるように支援している。また緊急時にもその都度適切な医療が受けられるように体制が整っている。	協力医の定期的な往診のほか、他科受診は家族が対応し、受診時に、往診、受診対応表を渡している。事情がある場合は職員が同行し、情報を受診対応表に記入し協力医、家族、職員で情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内の看護師に健康状態の相談を行い指示を受けている。突発的な事故や病状の異変、悪化等はその都度、電話にて相談し指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には今後の治療方法をご家族、職員、主治医と話し合いを持ち、早期退院をできるよう情報交換を行っている。普段よりご家族様の要望を聞き取り、病院側との関係作りにも努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や緊急時の対応について、ご家族様やご本人様の想いを早い段階より聞き取り、話し合いを行っている。事業所でする事をご家族様と話し合いを持つように努めている。	食事が摂れない等状態が変わった時の対応を、利用開始時に口頭で伝えている。看取りは主治医の判断や家族の希望など条件が揃った時に、個別の文章を取り交わす準備をしているが、今のところ入院になっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し、いつでも職員が閲覧し対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施できていない、マニュアル等を作成し職員に周知している。	今年はまだ避難訓練が行われておらず、全体会議や主任会議で準備を進め、12月中に消防署立会いで夜間を想定した避難訓練を行う予定である。火災以外の災害想定で安全面を確認し、災害時の備蓄品類は代表宅に保管している。	予定の火災避難訓練には住民の参加も得て行うことと、今後も年に2回の定期的な避難訓練の実施を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者さまの生活歴や人格、自尊心を尊重出来る様、職員間で意識し親しみやすい言葉掛けや工夫を行いながら対応できるように配慮し合っている。	利用者の生活歴を考慮し、家族の同意を得ながら親しみやすい呼びかけをしている。職員の言葉づかいで気になる点があればその都度注意している。個人記録などは鍵のかかる戸棚に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望が言えるような声掛け、環境作りにも努めており、思いを伝えることが困難な利用者には表情の変化等から汲み取り自己決定して頂けるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務等を優先せず、ご利用者様を最優先し、状況やペースに合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際、ご利用者様の好みに合わせ、季節に合った洋服選びや身だしなみができる様に支援している。		

グループホーム 涼風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の状態に合わせて、家事仕事等を無理のない程度に手伝って頂いている。朝、夕食は職員と一緒にテーブルに着き会話を楽しみながら召し上がって頂けるように努めている。	利用者ができる範囲で食器洗いや食器拭き、下膳などを手伝っている。栄養状況を鑑みメニューを工夫している。昼食は職員と一緒に摂っておらず、介助や見守り対応としているが、朝食と夕食は利用者と一緒に同じ食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事、水分の摂取量を記録しており、摂取量の変化を確認している。摂取量の少ない方には好みの物の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け、介助にてうがいの実施を行っている。不十分な部分についてはお手伝いさせていただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを記録しており、時間事の声掛けやトイレ誘導を行っている。訴えない方は行動や体動の変化を見て声掛けし、失禁を防ぎ不快感の無い生活を送って頂けるように努めている。	「フロアシート」により利用者の排泄パターンを把握して誘導を行っている。誘導の際の声かけは耳元や小声で行い、プライバシーに配慮している。日中と夜間でオムツの種類を変えるなどしてなるべくトイレでできるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日1度、乳製品を提供し、水分摂取や体操等、工夫を行い自然排便して頂けるように配慮している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一週間に最低2回の入浴を行い、拒否がある方は時間帯や日、職員を変更し対応の工夫を行って入浴して頂けるよう、支援に努めている。	日曜以外の午後の時間帯で、各利用者が概ね週2回程度の入浴をしている。拒否がある場合は時間や対応職員、日にちを変えて行っている。入浴時に会話したり歌を歌って楽しんでいる。また、同性介助や2人介助も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状態や希望にて午睡をして頂き、夜間眠れない方には温かい飲み物を提供し話を聞く等の対応をとり、安心して眠って頂けるよう支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表にて個々の薬の目的、理由や副作用を把握している。薬が変わった際もスタッフ間で体調を把握するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を活かしたレクや家事を職員と行い、それぞれに役割を持って頂き、張りのある生活を送って頂けるよう支援に努めている。		

グループホーム 涼風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏季は希望があれば、公園まで散歩に出かけ、買い物に行かれる利用者の支援も行っている。冬季はご家族様にも協力頂き、食事・買い物等の外出を行っている。	事業所の近くの広い河畔公園が住民の散歩コースになっており、夏場は毎日のように散歩に出かけている。駐車場脇に野菜や花のプランターを設けて利用者が水やりをしたり、外のベンチで日光浴をしている。冬場はやや外出機会が減るが、個別に買い物に同行したり、家族の協力を得て外食などに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様により、お金を持っていると安心される方もいる為、ご家族様同意のもと、少額ではあるがお金を持っている方もいらっしゃる。紛失等の訴えがあれば、傾聴し安心して頂けるように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に電話できる体制をとっており、ご家族様の在宅時間も把握し、電話連絡をとりやすいように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は毎日の掃除と、トイレ等1日数回の消毒を行い清潔を保っている。車椅子でも自由に動けるスペースの確保を考え、季節に合わせた飾り付けを飾り、居心地良く過ごして頂けるよう工夫に努めている。	居間には多くの窓があり、明るく開放的である。壁には写真や季節の装飾がふんだんに飾られている。温度や明るさも調整され、清掃も行き届いており、居心地よく過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、ソファが有り、ご利用者様はご自身の好きな場所、落ち着いた場所で過ごして頂けるよう支援に努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	身体状況に合わせた家具等を配置し、ご自宅で使っていた馴染み深い家具や日用品を持ち込まれている。ご本人様が安全で居心地良く過ごせる居室作りにも努めている。	居室は和風の造りで、内窓が障子になっており落ち着いた雰囲気である。室内には利用者が馴染みの家具や生活用品を自由に持ち込むことができている。壁にもカレンダーや寄せ書きなどを飾り、温かい雰囲気を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせた配置を考え、安全面を配慮し自立した生活を送ることができる様に努めている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502348		
法人名	有限会社レイロ		
事業所名	グループホーム涼風		
所在地	札幌市豊平区中の島2条7丁目4-5		
自己評価作成日	平成25年11月11日	評価結果市町村受理日	平成26年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆったり 穏やか 安心 安全」に過ごして頂けるように、スタッフ全員が意識をもって支援を行っている。
ご利用者様一人一人が自分らしさを失うことが無いよう支援に努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigrosyoCd=0170502348-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年11月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(2階 アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念、フロア理念を事務所、各フロアに掲示し、ネームプレート裏に携行しており、いつでも確認できるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、あまり交流できていないも、運営推進会議に町内会長に参加して頂けるようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して対応方法等を報告している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて質問があった場合に、その場で返答する等、話し合いの場を設けている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは、不明な点があれば、その都度相談させて頂き、会議等に出席し情報を得るようにしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを通じて、スタッフ会議にて伝え確認を行っている。日常業務の中でも話し合いを行なっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを通じて、スタッフ会議にて伝え、再確認し理解を深めている。		

グループホーム 涼風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状、その場での話し合いが多くなっており、会議等を通じて伝える機会を設け、知識を得ることが出来るようにしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の面談時、契約締結時に説明を行い、時間を設け質疑応答を行うようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等で意見や質問を頂き、運営に反映出来るよう努めている。又、面会に来られた際も意見や要望を伺い、即対応出来るように努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、カンファレンス等を開催し、意見や提案を聞く機会を設けている。又、日々の業務の中で意見や提案を聞き、その都度スタッフ間で話し合いを行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	残業のない業務体制をしており、ストレスを感じない様な職場環境に出来るように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要時は勉強会を実施しており、日常の業務の中で個別の指導を行ったりし、職員の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の管理者会議に参加するなど、交流の機会があり、サービスの向上に役立っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前よりご本人と面談し、不安や心配を受け止め、納得いただけるよう話しをする機会を設け理解を深めて頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームの見学をしていただく等、ご家族にあう機会をつくり、要望等を傾聴できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の希望を確認し、必要なサービスを行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と共に家事をしていただく等、利用者様と生活を共にする者同士の関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた際に、日常の様子や健康状態を報告し、月に一度、手紙にてホームでの様子を伝えるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人や親戚の方の面会があれば、居室にてゆっくりと過ごせるように努めている。必要に応じて、ご本人の状況の説明も行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	散歩、体操、レクなどを活用し、共有スペースを利用し、利用者様が孤立しないような雰囲気作りを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族には電話や手紙にて近況の確認をされており、入院にて退居されたご利用者様は病院とも連携を図るようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の日々の生活の中で、希望、意向を確認するように努めている。表現の難しいご利用者さまは表情や行動から把握するよう行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族、ご本人からの情報でライフヒストリーを作成し、個々の暮らし方について理解できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の業務の中で、記録物等も利用し情報を共有して、一人一人の心身状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族に意見を聞き、アセスメント、モニタリングを行い、カンファレンス会議で話し合いを行った結果をまとめ介護計画を作成し、ご家族の確認を得て実行している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や発言をケース記録、フロアシートに記入しスタッフ間で情報を共有している。情報を把握し日々のケアに反映させるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	役職者、協力病院共に24時間体制で対応しており、緊急時等の支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の意向や必要に応じて民生委員、消防、警察機関と協力を取りながら支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族の希望があればかかりつけ医による月2回の往診を受け必要時に受診も行っている。入居前からの慣れ親しんだかかりつけ医を希望されれば、ご家族と協力し通院支援をお願いしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師にバイタルチェックや健康管理の相談にのって頂いており、協力病院の医師とも連携をとり、体調変化には速やかな対応ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院された場合、ご家族の意向を確認し連携をとり早期退院を目指している。主治医とも連携をとりご利用者の情報を入院先へ提供している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師、ご家族、職員と話し合い検討を行っている。ご家族には「できる事、できない事」を明確に伝えている。職員も個々の終末期に関する知識、技術の向上をはかっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンス、会議等で緊急時対応の説明を行っている。マニュアル等も作成しいつでも見られる工夫もしてりう。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル等を作成し対応できるようにしている。避難訓練は実施できていないため、会議等で災害時の説明ををこなっている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人個人の尊厳保持に努め、自尊心を傷つけない関わりに気を付けている。個人記録も事務所や安全な場所に保管し、個人情報保護法を遵守している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様主体で考えるように努めており、生活していく場面で選択をしてもらえるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	ご利用者様のその日の様態や希望に合わせて対応している。本人のペースに合わせて支援できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容の利用や、個人個人のご家族にも確認し好みの洋服を身につけられるように支援している。		

グループホーム 涼風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者さまの出来る範囲でもやしの芽取り、食器洗い、食器拭き等の手伝いを行っている。誕生日等はご利用者の好みの献立に変更し提供もを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事量をチェック表で確認をしている。栄養士が献立作成し栄養バランスに考慮させた食事を提供している。個々の摂取状況により、食事形態の変更も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの実施を行っている。不十分な部分については介助にて実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間を記録しトイレ誘導時間に役立てている。職員が排泄パターンを把握し適切に誘導できるように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、乳製品を提供し体操等の運動も実施し予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の体調を確認し出来る限り希望に合わせて入浴を楽しんでもらっている。何日も入浴を断られている場合は清拭や足浴も勧めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも状況に応じて休息がとれるように支援している。夜眠れない場合、温かい飲み物を勧め、話しの傾聴を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表をファイルしており、いつでも確認出来るようにしている。日々の業務で職員間の情報を共有しており、症状の確認をとれるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人個人ができる役割(食器洗い・拭き、洗濯物干し・たたみ等)を持ち、散歩やレクリエーション等、生活を楽しめるように努めている。		

グループホーム 涼風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	公園までの散歩や買い物等の外出支援を行っている。ご家族様で食事等に外出されるご利用者さまもいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様の状況に応じて、ご家族さまと相談し、少額所持される方もいるが、基本的にはホームで管理を行い、必要時に使えるように支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人個人の希望に合わせて電話がかけられるように対応している。希望があれば手紙の代筆や投函の支援も行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには自然採光が入り明るい雰囲気も保たれている。不快を感じる環境には配慮しており、季節にあった装飾に心がけ、四季を感じられるように努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やソファ等を利用し、ご利用者様同士が談笑されたり、休まれたりできるように配慮している。配置換えも必要時には行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたベットやタンス、仏壇等を持って入居され、穏やかに居心地の良い居室にできるように工夫を行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人個人の居室が分かるように名前を表記しており、トイレにも解りやすく表記を行っている。リビングに日めくりカレンダーも設置している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 涼風

作成日：平成 26年 3月 15日

市町村受理日：平成 26年 3月 18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議実施しているも、3ヶ月に1度の実施となっている	2ヶ月に1回、定期的実施していく	日程調整を早めに行い、参加者に連絡を早めに行い、参加しやすい様に取り組みで行きたい	1年
2	11	個々の話し合いは行っているも、全体での勉強会等は定期的に行えていない	会議等に勉強会を組み込んでいき、定期的な開催を実施していく	月一度のカンファレンス、会議等で様々な知識に関する勉強会を実施し、個々のケースに合わせた議題を検討していく	1年
3	35	防災訓練を実施できていない	年2回実施し、近所の住民の方にも声をかけて参加を促していきたい	12月に実施しており、今後は日程調査を行い、定期的実施していく	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。